

北見工業大学学報

第 243 号 (2011 年 1 月号)

目 次

年 頭 挨 拶	平成 23 年学長年頭挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
入 試	平成 23 年度推薦入試の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
	平成 23 年度大学入試センター試験の実施・・・・・・・・・・・・・・・・	4
研 究 助 成	平成 22 年度共同研究の受入状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
	平成 22 年度受託研究の受入状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
	平成 22 年度奨学寄附金の受入状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
受 賞	地域共同研究センター 内島典子氏が平成 22 年度イノベーションコーディ ネータ表彰(若手賞)を受賞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
	国際交流センター 山岸喬教授が北海道社会貢献賞(国際協力功労賞)を 受賞・・	7
諸 報	創立 50 周年記念誌「北天に光を放つ」を発行・・・・・・・・・・・・・・・・	8
	職階別スキルアップ研修を実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
	地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議を湧別町で開催・	10
	救急救命講習会を実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
	物理実験の体験及び学内の研究装置の見学会を実施・・・・・・・・・・・・	12
	ウインター・サイエンスキャンプ「雪と氷の世界を体験しよう」を実施・・・	14
	「地域を彩る食物語」を開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
	フィジカルヘルス講演会～タバコがもたらす健康への影響～を実施・・・・	17
	上村愛子選手トークショーを開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18
日 誌	12 月・1 月・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19

= 年頭挨拶 =

平成 23 年度 学長年頭挨拶

明けましておめでとうございます。

昨年、本学は創立 50 周年という大きな節目の年を迎え、記念の式典・祝賀会・講演会、国際ワークショップ、さらには記念誌の発行や 50 本のエゾヤマ桜の植樹と様々な催しを行ない、いずれも成功のうちに終了することができました。これはひとえに教職員の皆様がそれぞれの立場でご尽力いただいた賜であり、心からお礼申し上げます。

記念事業の一環として行っております募金についても御協力をいただいているところではありますが、卒業生や企業の方々などにもさらなる働きかけをしていただければ幸いです。

さて、事実上初めて民主党による予算が昨年末編成されました。我が国の財政状況が悪化しているなか昨年 6 月の閣議で平成 23 年度から 3 年間の予算は平成 22 年度のそれを上回らないことが決定され、国立大学の運営費交付金も毎年 10%、3 年間で 30% と途方もない削減率が課せられかねない状況となり、学長としてそれを阻止すべく他大学の学長と共同で緊急の声明を出したり、個別に関係者へ状況説明などをしたりして様々な活動を行ってまいりました。

結果として、12 月 24 日に内示されました本学への運営費交付金は前年度比 1.7% 減となり、依然として厳しい状況であることには変わりありませんが、最悪のシナリオは避けることができました。

これもパブリックコメントなどに御協力いただいた皆様方のお力の賜であり感謝申し上げます。



パブリックコメントでは科学技術予算の増額に関して国民から多くの意見が寄せられた結果、来年度の科学研究費補助金は制度創設以来例のない大幅な増額となっています。先生方におかれましては運営費交付金の目減り分を補う上でも積極的な申請をお願い致します。

なお、本学独自に概算要求をしておりましたプロジェクトは、継続分はすべて認められており、加えて新規プロジェクトとしては、「工学を基盤とした食の安心・安全教育プログラムの構築」が認められました。

また、平成 23 年度概算要求の前倒しとして、平成 22 年度第 1 次補正予算で、「構造物用部材の耐荷重・耐疲労特性測定システム」が認められたことをご報告いたします。

予算以外の面での本学の今年の課題として、平成 24 年度に計画している大学院博士前期課程改組のための実質的な作業が挙げられます。平成 20 年度に行った学部学科の改組に伴い学士課程と博士前期課程を合わせた 6 年間一貫教育による専門技術者育成のためのカリキュラム充実を図ることが目的です。

平成 22 年度に医療工学専攻の新設など博士後期課程の組織見直しを図り、学生定員の充足を果たしましたが、改組に当たり担当の皆様には大変ご苦勞をかけたところであります。博士前期課程の改組も学内合意を得ながら進めて参る所存です。

残り少なくなった今年度中の話題と致しましては、皆様にご不便をおかけしております「食堂・大学会館改修工事」は、今月 31 日に完成する予定となっております。この工事は 50 周年記念事業の一環として実施したものであり、座席数不足による混雑緩和や環境改善に繋がるものと考えております。また、大学会館の 2 階には展示スペースを備えた食堂の整備を進めており、本学関係者のみならず、外部からのお客様に本学の歴史や特徴ある研究などをご覧いただけるスペースとして積極的な活用を進めて参ります。

さらに 3 月には情報処理センターの計算機システムが更新されます。高速計算機の導入に加えて演習室の端末の充実や ID とパスワードのシステム間の統合などにより、教職員・学生の皆様にとってより利便性が向上するものとなっております。

今年は、本学にとって新たな半世紀に向けての歴史を刻む第 1 歩の年となります。

最も北に位置する国立単科大学としての特徴を最大の強みとし、本学が掲げる教育理念や研究、社会貢献の目標を達成するために全力を尽くしてまいりますので、引き続き皆様方のご協力とご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。最後に、ご家族共々皆様が今年 1 年心身ともに健やかに、幸せに満ちた日々を過ごせますようご祈念申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。

学長 鮎田 耕一



= 入試 =

平成 23 年度推薦入試の実施

(入 試 課)

平成 23 年度推薦入試は、小論文及び面接試験が 12 月 3 日（金）に実施され、12 月 15 日（水）に合格発表が行われました。各系列別の合格者等については下表のとおりです。

系・学科名		募集人員	志 願 者	合 格 者
機 械 ・ 社 会 環 境 系	機 械 工 学 科	40	61	44
	社 会 環 境 工 学 科			
情 報 電 気 エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス 系	電 気 電 子 工 学 科	35	50	38
	情 報 シ ス テ ム 工 学 科			
バ イ オ 環 境 ・ マ テ リ ア ル 系	バ イ オ 環 境 化 学 科	28	47	29
	マ テ リ ア ル 工 学 科			
計		103	158	111



合格発表の様子

平成 23 年度大学入試センター試験の実施

(入 試 課)

平成 23 年度大学入試センター試験が、1 月 15 日（土）、16 日（日）の両日実施されました。本学会場の志願者は昨年度より 67 人増の 815 人となりました。

= 研究助成 =

平成22年度共同研究の受入状況

平成23年1月28日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
機械工学科	准教授	鈴木聡一郎	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究	株式会社レクザム
機械工学科	准教授	鈴木聡一郎	内傾角速度を向上させるスキーブーツのフットベッド設計に関する研究	有限会社キャンプダンガリー
バイオ環境化学科	教授	鈴木勉	バイオマス由来触媒炭化物の機能性評価	東電環境エンジニアリング株式会社
マテリアル工学科	助教	浪越毅	高屈折率材料用含硫黄ポリビニルエーテルおよびポリビニルスルフィドの合成	丸善石油化学株式会社

平成22年度受託研究の受入状況

平成22年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費
					円
社会環境工学科	教授	中山恵介	超濁度水発生機構の解明と防止に向けた現地試験および現場での採泥分析を用いた土砂輸送に関する研究	網走開発建設部	2,021,000
電気電子工学科	准教授	武山真弓	低コスト薄膜太陽電池用SiおよびSiNx薄膜の革新的低温作製技術の開発	独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	2,487,000

平成22年度累計12件

平成22年度奨学寄附金受入状況

平成23年1月28日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
					円
	学長	鮎田耕一	学生に対する支援（大学院学生奨学金支給）	北見工業大学後援会	930,000
機械工学科	准教授	鈴木聡一郎	スキーブーツ設計に関わる工学研究のため	株式会社レクザム	100,000
電気電子工学科	准教授	菅原宣義	クランプ凍結膨張再現試験（冷却試験）実施のため	三和テッキ株式会社	500,000
社会環境工学科	教授	中山恵介	複雑な河道条件下における今後の気候変動による海水面上昇に伴う影響検討モデルの開発	株式会社建設技術研究所 東京本社	500,000
国際交流センター	教授	山岸喬	教育研究助成のため	株式会社カイゲン	700,000
社会環境工学科	教授	大島俊之	寒冷地における今後の道路構造のための環境対策に関する研究	パシフィックコンサルタンツ株式会社	1,800,000
社会環境工学科	教授	大島俊之	低温下における積層ゴム支承の機能特性に関する研究	株式会社川金コアテック	2,000,000

平成22年度累計54件

= 受賞 =

地域共同研究センターの内島典子産学官連携コーディネータが 科学技術振興機構イノベーションコーディネータ表彰若手賞を受賞 (地域共同研究センター)

地域共同研究センターの内島典子産学官連携コーディネータが科学技術振興機構（JST）の平成 22 年度イノベーションコーディネータ表彰において第 1 回若手賞を受賞しました。表彰式は、11 月 29 日（月）に浜松市で開催された「全国イノベーションコーディネータフォーラム 2010」にて行われました。

JST は、科学技術に関する様々な研究の支援、科学技術情報の流通等、科学技術振興のための基盤整備に関する業務を総合的に行う文部科学省所管の独立行政法人です。JST が平成 21 年度に開始した本表彰は、全国の産学官連携コーディネータの活動・実績の成果を客観的視点から表彰するもので、コーディネータのモチベーションの向上、コーディネータ活動価値の社会へのアピール、さらにはコーディネータのより一層のステータス向上、優秀なコーディネータの育成・確保などを目的としています。その中で本年度新たに設定された若手賞は、優れたコーディネータ活動を行っており今後の活躍が大いに期待される 45 歳未満の若手コーディネータに贈られる賞であり、今

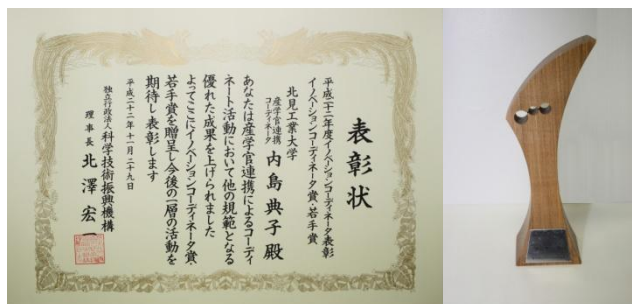
回が記念すべき第 1 回の表彰でした。

内島コーディネータは技術アウトリーチを専門とし、多種多様な場を活用した技術シーズ広報、そのためのデータベースやネットワーク構築、世界企業・先端企業との連携スキームづくり等、北見工業大学の全国レベルでの産学官連携活動強化のための基盤整備に取り組んでいます。また学外でも、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の新技術調査委員、産学連携学会の理事等を務める他、関連の学界活動や各種指導、勉強会の立ち上げなど、全国の産学官連携活動の発展に精力的に取り組んでいます。

今回の賞は、その中でも特に、内島コーディネータが「全国若手産学官連携実務者勉強会」を立ち上げ、若手コーディネータが参加しやすくかつ実務スキル向上に有効なコミュニティを構築したことについて、産学官連携活動に従事する人材の成長の場として広域かつグローバルに拡大する芽となることが期待されると高く評価され受賞にいたったものです。



小原満穂 JST 理事より楯の授与



授与された賞状と楯

国際交流センター長、山岸喬教授が 平成 22 年度北海道社会貢献賞（国際協力功労者）を受賞

（国際交流センター）

このたび、本学国際交流センター長山岸喬教授が、本年度の北海道社会貢献賞（国際協力功労者）を受賞されました。

山岸教授は平成 7 年 4 月に北見工業大学の初代留学生担当教授として赴任し、その後、平成 16 年 4 月に設置された北見工業大学国際交流センターのセンター長に就任して以来、当大学の国際交流の推進及び発展にご尽力いただきました。

特に、当大学に赴任以来、外国人留学生の“父親”役として留学生の生活支援に日々熱心に取り組まれており、外国人留学生と

市民との交流活動にも力を注がれ、「留学生と市民で楽しむ野草観察会」は平成 7 年度から毎年実施しています。

さらに、地域特性を踏まえた国際協力事業に取り組むため設立された北見国際技術協力推進会議では、平成 16 年 6 月から議長に就任し、これまで JICA 草の根技術協力事業や JICA 青年研修事業を通して多くの技術研修員を受入れたり、自らも 2 度技術専門家として外国を訪問するなど、北見市の国際化に大きく貢献したことなどが高く評価され受賞に至りました。



表彰状



記念の楯

= 諸報 =

創立 50 周年記念誌「北天に光を放つ」を発行

(情報図書課)

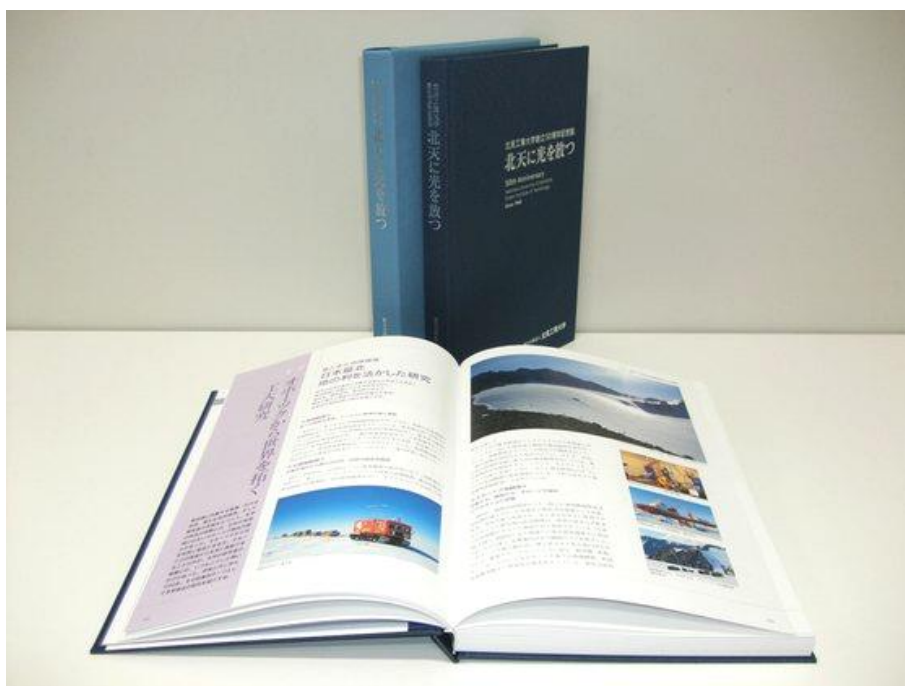
平成 22 年に創立 50 周年を迎えたことを記念し、同年 11 月に北見工業大学創立 50 周年記念誌「北天に光を放つ」を発行し、創立 50 周年記念基金への寄附者等に対し配布しました。本学 50 年の歩みに始まり、教育や研究、学生生活等の最近 10 年の紹介の他、元学長・名誉教授や卒業生・現役学生等の寄稿文、創立 50 周年記念事業として行われた各行事の紹介等写真やグラフを交えオールカラーで 300 ページに渡って綴っ

ています。特に北見工業大学ならではの特色ある研究の巻頭特集ページや研究者自らが執筆した各研究室の紹介ページは必見です。

また外観は、オホーツクブルーをイメージした表紙及びケースと、銀箔の文字が映えるとても素敵な仕上がりとなりました。

本学では、今後も同基金への寄附者に対し記念誌を配布していきます。同基金については下記ホームページをご覧ください。

ホームページ URL http://www.kitami-it.ac.jp/general_affairs/50th_fund_raising



創立 50 周年記念誌「北天に光を放つ」

事務局職員職階別スキルアップ研修を実施

(企画広報課)

11月29(月)、30日(火)、12月1日(水)の日程で、副課長級、係長級、係員級の別に事務局職員職階別スキルアップ研修を実施しました。

加藤事務局長からは事務局職員に期待することや日常実務に直結する話題までを盛り込んだ講話があり、受講者は熱心に聞き入っていました。外部講師からは、目標管

理、図解思考、タイムマネジメントについての実習を交えた講義が行われ、受講者それぞれが問題意識をもって取り組んでいました。また、最終日の12月1日には、各職階共通でハラスメント関連ビデオの視聴を行い、昨年度のパワーハラスメントに引き続き、今年度はセクシュアルハラスメントについての理解を深めていました。



加藤事務局長の講話



演習の様子

地域共同研究センター 産学官連携推進員・協力員合同会議を湧別町で開催

(研究協力課)

12月8日(水)に、本年度第2回目となる地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議を湧別町「文化センターさざ波」で開催しました。

本会議は、平成16年度からオホーツク圏を3ブロックに分けて斜網地区、遠紋地区、北見地区で開催しており、北海道、特にオホーツク地域の経済発展を目指し、周辺自治体・公設試験場・包括連携協定締結機関等の関連部署担当者に「産学官連携推進員・協力員」を委嘱し、産学官連携に関する

協議・情報交換会を実施しております。

第2回目となる本会議には、自治体から6名、金融機関から2名、公的機関から8名、周辺大学から2名、本学関係者6名の総勢24名の出席がありました。

各自治体からは地場製品の紹介や地域資源の活用についての相談等があり、各大学からは研究シーズや行事の紹介、金融機関及び公的機関からは事業促進のための補助事業等の情報提供がありました。第3回目を2月に本学で開催する予定です。



会議の様子

救急救命講習会を開催

(施設課)

12月22日(水)、本学第二講義棟2階講義室及びホールにて教職員を対象とした救急救命講習会を開催し、教職員20名が受講しました。

はじめに北見地区消防組合 岩崎様より座学による講習が行われ、近年の北見市内における事故発生の動向や救命措置の基礎的な事項などについて説明がありました。救命措置を必要とする人を発見した時には一刻も早く119番に通報することと居場所を正確に伝えることが重要ということでした。また、呼吸停止してからの5分間以内

に救命措置を行うことが救命措置の成否に関わる重要なポイントであり、要救助者を発見した場合は勇気をもって対処してほしいとの言葉もありました。

その後、実際に訓練用のAEDと要救助者の模型を使って救急救命措置の実技訓練を行いました。消防組合職員指導のもと、参加者たちは心臓マッサージと人工呼吸を使った心肺蘇生法及びAEDの使用方法をひとつひとつ確認しながら訓練を受けていました。



指導員の指示のもと救急救命措置訓練を行う様子

物理実験体験等行事を開催

(技 術 部)

技術部では今回初の試みとして、12月24日(金)、北見市立東陵中学校の希望生徒を対象に大学における物理実験の体験及び学内の研究装置の見学会を実施しました。

今日、児童・生徒の理科離れ、工学離れが叫ばれていますが、本行事を通し多少でもこれを改善し、科学への興味をもってもらうことを目的に、従来から本学で実施している「おもしろ科学実験」と同様に地域貢献事業・大学開放事業の一環として位置づけ、学長を始め事務局の方々、各担当教員・学生のご協力の下、技術部が主体となり実施しました。

これまで研究面では勿論、教育面でも地域貢献事業として様々な取り組みが実施されていますが、中学生を対象とした事業はほとんどないのが実状です。このため、本事業は従来の各種事業と異なり、中学生のみを対象として企画・実施しました。

今回の行事を通じ、参加した生徒たちが科学への関心を高め、理工系大学等への進路選択のための情報提供の一助となることが期待される効果として考えられます。

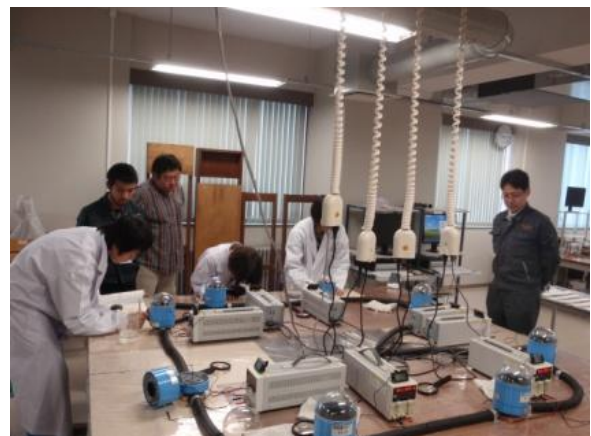
一方、本学の技術職員は従来から工学の各分野で普段の業務において実験やものづくりを得意とし、それぞれの分野で高い専門能力を有しています。そこでこの事業においてこの特性を十分に発揮でき本行事の円滑化を図ることが期待できました。

開催日は、あいにく祝日と土曜日にはさまれていた上、クリスマスイブと重なったためか、我々の期待が外れ引率の井川教諭の他に4名の生徒が参加したのみでした。

亀丸技術部長の挨拶と概要説明後、百武技術員より実験に関する注意事項の説明を行い、物理学実験を開始しました。

今回の実験テーマ「雪の結晶を作ってみよう」では3名、「コンピューターを操作しよう」では1名が、本学の1年生が行っているものとほぼ同じ実験に取り組みました。それぞれ普段の実験で担当する技術員及び学生が指導を行い、参加生徒も熱心に実験に取り組みました。

生徒達は、テーマごとに現象を観察し、技術部で用意したレポート用紙(大学生が使用するものとほとんど変わらない)に測定データを記録し、この観察結果を簡単にまとめてから提出しました。提出されたレポートは普段の学生実験のように担当者がきちんと添削した後各自に返却しました。



「雪の結晶」を作る実験風景

装置見学では、総合研究棟に設置されている 3D 投影装置（菅原幸夫先生他指導）とドライビングシミュレータ（川村彰先生・富山研究員指導）の 2 班に分かれて体験し、生徒達もこれらを変楽しんでいました。

今回の行事は準備が短期間であったことにかかわらず、学長を始めとする各方面の方々のご尽力により心配された事故や

怪我もなく無事終了できました。参加者には、物理実験及び各装置見学のいずれも大変好評でした。今後に向けて、今回の企画内容等について参加者からのアンケートなどを基に反省を行い、更に充実した内容での実施を検討したいと考えています。その際には再度各方面のご協力をお願いする次第です。



パソコンによる物理現象実験



「ドライビングシミュレータ」体験

ウインター・サイエンスキャンプ「雪と氷の世界を体験しよう」を実施 (学生支援課)

1月5日(水)から7日(金)にかけて、「雪と氷の世界を体験しよう～雪結晶から地球環境まで～」をテーマに、ウインター・サイエンスキャンプを実施しました。本事業は独立行政法人科学技術振興機構が主催する高校生を対象とした科学技術体験合宿プログラムであり、本学では平成16年度から開催され、今回で7回目となりました。

本学の屈斜路研修所を主会場とし、講義・フィールドワーク・研究発表と内容盛り沢山のキャンプとなりました。講義では、高橋修平教授による「雪と氷の世界」、原田康浩准教授による「寒冷地の光学現象」、館山一孝助教による「北極海の環境変動」、知的財産本部・岩崎氏による「ポンポン山の不思議」などの専門的な話題が紹介され、参加者たちは真剣な表情で学んでいました。フィールドワークでは、摩周湖や硫黄山で

赤外カメラによる温度観測を行い、美しい雪景色も堪能することができました。中でも、仁伏温泉ポンポン山への登山では、スノーシューを履いた初めての雪山トレッキングに悪戦苦闘しながらも参加者たちは歓声を上げて楽しんでいました。頂上に到着すると、それまでとは全く違った雪がなく緑の残る風景が現れ、前日の講義で紹介された、冬場も生息しているコオロギのかすかな声を聞きとろうと全員で耳を澄ませていました。

今回のキャンプは天候に恵まれ、冬の北海道の自然を存分に体感できる充実した3日間となりました。参加者も積極的に学び、互いの交流を深めて刺激し合う様子が見られ、忘れることのできない貴重な経験となったのではないのでしょうか。



硫黄山での赤外カメラによる温度観測



スノーシューを履いてポンポン山探索



頂上でコオロギの声に耳を澄ませる高校生たち

「地域を彩る食物語」を開催

(研究協力課)

文部科学省科学技術振興調整費地域再生人材創出拠点の形成プログラムの食農分野を中心した採択機関と道内の大学および公設試験場機関、合わせて11機関による人材育成事業北見地区成果報告「地域を彩る食物語」を1月12日(水)～13日(木)にコミュニティプラザパラボまちきた大通ビル5階催事場にて開催しました。

本イベントでは、事業内容と関連製品の紹介を通じて、食と健康、人材育成をキーワードとした地域興しの意識を広く共有し、向上させることを目的としております。会

期中は参加機関による、食農人材養成ユニット会議、講演会、パネル展、成果品の展示、試作品アンケートの実施や長崎大学、帯広畜産大学、東京農業大学、北見工業大学による大学関連商品の販売会を行い、多くの来場者で賑わいました。

「高知展」との同時開催でもあり、高知大学、長崎大学の講演では坂本龍馬にちなんだ話を聞くことができました。また、本イベントの様子はNHKでも放映されました。



開会式での鮎田学長の挨拶



開会式の会場



高知大学副学長 受田浩之先生の講演



本学関連商品の販売会

フィジカルヘルス講演会を開催

(学生支援課)

1月17日(月)、総合研究棟2階多目的講義室において、学生及び教職員を対象とした「フィジカルヘルス講演会～タバコがもたらす健康への影響～」を開催しました。

はじめに、本学保健管理センター所長本田 明先生から「本学における喫煙、禁煙の状況について」と題して、本学の喫煙対策や事前に実施した喫煙アンケートの結果から、学生及び教職員の喫煙に至った動機、喫煙・禁煙に対する意識などについて

説明がありました。

その後、宮崎大学安全衛生保健センターからお越しいただいた江藤 敏治先生による「禁煙は愛です。あなたにできること」と題した講演があり、ロールプレイを交えながら、タバコがもたらす健康被害や経済への影響、また禁煙のポイントなどをわかりやすく丁寧に説明いただき、参加者は興味深く聞き入っていました。



講師の江藤先生



ロールプレイの様子

上村愛子選手トークショーを開催

(学生支援課)

1月29日(土)、創立50周年を記念してスキーモーグルの上村愛子選手を招いたトークショーを本学講堂で開催しました。

機械工学科の鈴木聡一郎准教授がスキーブーツメーカー(株)レグザムとの共同研究で、設計・開発したスキーブーツを上村選手が愛用していることが縁となって今回のトークショーが実現しました。

会場には学生、市民併せて400人ほどが詰めかけ、まず本学と上村選手との関わりを紹介した動画資料放映の後、上村選手が舞台袖から登場すると万雷の拍手がまきおこりました。

引き続き、鈴木准教授が進行役となり、上村選手、柳等准教授(共通講座)、内島典

子産学官連携コーディネータ、(株)レグザムの林末義氏によるトークセッションが行われ、上村選手からは「モチベーションを維持するには、目の前のコブを1つずつクリアしていくように目標をかなえていくことが大切であり、それが世界の頂点を目指すことにもつながっている」とのメッセージが送られました。

質疑応答では、技術的なことやメンタルトレーニングなどについて来場者から次々と質問があがり、上村選手は、その一つひとつに丁寧に答えていました。最後に田牧副学長から上村選手に対する感謝の言葉が述べられ会場から大きな拍手が送られる中、トークショーは無事に終了しました。



トークショーの様子と上村選手に質問する学生



= 日誌 =

12 月

- 1 日 広報誌編集委員会、職階別スキルアップ研修
- 3 日 推薦入試、休講
- 8 日 情報システム運営委員会、地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議
- 9 日 教務委員会
- 10 日 教育研究評議会
- 13 日 役員会
- 14 日 入学試験実施委員会、入学者選抜委員会、図書館委員会
- 15 日 教授会、研究家委員会
- 21 日 冬期休業日(～1月3日)
- 22 日 平成22年度リーダーシップトレーニングセミナー
- 24 日 物理実験体験等行事

1 月

- 4 日 集中講義期間(～7日)
- 5 日 ウィンター・サイエンスキャンプ(～7日)
- 7 日 教務委員会、留学生スキー研修
- 11 日 役員会
- 12 日 研究科委員会、「地域を彩る食物語」(コミュニティープラザParabo5階/～13日)
- 13 日 金曜日授業振替
- 14 日 休講
- 15 日 大学入試センター試験(～16日)
- 17 日 フィジカルヘルス講演会
- 19 日 教育研究評議会
- 21 日 就職ガイダンス
- 29 日 上村愛子選手トークショー

